

海南島近現代史研究会

第 14 回総会・第 26 回定例研究会

19 世紀中期以後、日本は、アイヌモシリ、奄美、琉球、台湾、カラフト島南半部、朝鮮、中国東北部・モンゴル東南部、「南洋群島」、海南島を領土化し、アジア太平洋の各地で侵略戦争を続けました。

日本政府は、その国家犯罪の歴史を明らかにしようとせず、侵略犯罪を謝罪しようとせず、責任者を処罰しようとせず、犯罪の重大さに相当する賠償をしようとしていません。

日本陸海軍が海南島に奇襲上陸してから 68 年後の 2007 年 2 月 10 日に発行した『日本の海南島侵略と抗日反日闘争』で、紀州鉾山の真実を明らかにする会は、「海南島での国民国家日本の侵略犯罪を明らかにすることは、全世界的規模の侵略の構造を破壊する民衆運動の一環である」と述べました。

2007 年 8 月 5 日に結成された海南島近現代史研究会は、会則で、その目的を、「海南島における日本の侵略犯罪の実態を具体的・総合的に把握し、それが海南島の政治的・経済的・文化的・社会的な構造をどのように破壊したのかを究明します」、「海南島における日本の侵略犯罪の実態を可能なかぎり総体的に把握し、その歴史的責任を追及します」、「本会は、海南島における抗日反日闘争の歴史を究明します」と鮮明に示しました。

その 16 年後に開催する今回の総会・研究会では、“歴史認識と社会変革”を主題とした前回の海南島近現代史研究会第 25 回定例研究会につづいて、事実を明らかにし、事実を伝達する方法について話しあいたいと思います。

と き：2023 年 2 月（日程は未定です）13 時～17 時（開場 12 時 30 分）

ところ：国労大阪会館 1 階ホール JR 天満駅改札口を右に出て、桜ノ宮駅方向へ 200 メートル
参加費・資料代：500 円（会員は無料です）

主題：民衆の歴史研究・歴史認識・事実の伝達

- 主題報告 海南島民衆の証言をどのように記録・伝達するか 佐藤正人
- 主題報告 海南島と朝鮮と中国東北部と日本で証言を聞いて 金静美
- 主題報告 中国東北部に残る万人坑の問いかけるもの 小林節子
- 討論 海南島近現代史・日本近現代史・世界近現代史 2

日本は、1869 年にアイヌモシリを、1872 年に琉球王国を領土化（植民地化）しました。

国民国家日本の歴史は他地域他国侵略・植民地支配の歴史でした。日本の国家犯罪の歴史を認識する民衆の方法について討論したいと思います。

- 海南島近現代史研究会の 21 回目（紀州鉾山の真実を明らかにする会としては 34 回目）の海南島「現地調査」について